

「日本カリキュラム学会 第5回研究集会」のご案内

下記の通り、第5回研究集会を開催いたします。事前申込みは不要です。ふるってご参加ください。

なお、当日は、公開にて研究会を開催します。ご関心のある方々にもお声をかけていただければ幸いです。

日時：2014年3月21日（金）13:30－16:30

場所：京都大学・吉田キャンパス・文学部新館第1講義室

（※URLの地図5番と8番の間にある建物の1階です。

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/map6r_y.htm）

参加費：無料

発表内容：各85分（発表45分、質疑応答・討論40分）

■徳永俊太先生（岐阜経済大学・専任講師）

「イタリアの歴史教育研究は何を問題にしてきたのか」

イタリアにおける歴史教育研究は、社会の動向に合わせてその姿を変えてきました。最初期の研究である1970年代のものは、労働運動やテロリズムによる社会不安を打破しようとする研究でした。本発表では、それ以降の各時代にどのようなことが課題とされ、どのような実践が紡がれてきたのかを社会の動向と照らし合わせながら明らかにしていきます。その際に、多数の教師や研究者による共同研究にも焦点を当てていきます。

参考文献

徳永俊太『イタリアの歴史教育理論に関する考察——歴史教育と歴史学を結び「探究」』（法律文化社より出版予定）

■盛永俊弘先生（長岡京市立長岡中学校・校長）

「中学校で考える学力向上の視点」

文部科学省は「全国学力テスト」について、市区町村教委による学校別結果の公表を来年度から“解禁”しました。そうした状況下で、中学校の現場では、「学力向上」をどのように考えたいのでしょうか？——①国立教育政策研究所で「全国学力テスト」の分析に関わったことから考えたこと、②中学校の学力格差の背景と実態、③授業づくりを根幹においた学校づくりの実践（マネジメント）などを中心に報告したいと思います。

参考資料

旺文社パスナビ「風を起こす学校」

<http://koukou.passnavi.com/index.php/blog/wind/56-morinaga>

※5年間の校長職のうちの1年半の実践内容が紹介されています。

※ 研究集会ののち、懇親会（会費5000円程度）を予定しています。参加ご希望の方は、石井（terumasa@educ.kyoto-u.ac.jp）宛てに、2月28日（金）までにご連絡ください。

※ その他のお問い合わせは、西岡（nishioka@educ.kyoto-u.ac.jp）までお願いします。